

アフターコロナを視野に、新たな年度を迎えて

おにき かずこ
産業能率大学学長 鬼木 和子



2023年4月、コロナ禍の出口もようやく見えはじめ、3年ぶりに新入生の保護者の方々を会場にお迎えして入学式を挙行することが叶いました。以来、早3ヶ月、経営学部618名、情報マネジメント学部381名の新1年生は、熱心に学習に取り組み、充実の大学生活を送っているという嬉しいニュースが両学部から入っています。大半の入学生が高校3年間をコロナ禍の状況下で過ごしましたので、大学生活への期待感はいくつあるかと思えます。初年次ゼミ、英語、「情報リテラシー」、そして「会社のしくみ」等々、多くの必修科目を履修し、授業外学習、提出課題、小テストに追われながらも、学友や担当教員との語らいに楽しさを覚え、新たな学びとの出会いに各々面白さを見出している様子が浮かびます。併せて、クラブ・同好会、各種委員会活動、学生会活動等の課外活動につきましても、これまでの制限が解かれ、学生の自主的な参画が可能になりました。新入生の皆さんのみならず、それぞれの興味関心に沿い仲間と共に大学生活を大いに楽しみ、有意義な経験を通して自身の世界観を広げることができるよう、支援をしてまいりたいと存じます。

そして、入学時からコロナ禍の環境にあった2020年度入学生の皆さんが最高学年となりました。不安を抱えながらも状況を理解し、挑戦を続けた3年間を経て、本学の4年生は、後輩のロールモデルとして大変頼もしく輝いています。就職活動も順調に進み、高い内定率を日々更新しています。4年生の皆さんにとって実りある大学生活最後の1年にするためにも、私共も一人一人のニーズに応え支援してまいります。

「キャリア教育」の重要性が叫ばれて久しいですが、本学では、早くから正規の授業科目にキャリア教育を取り入れ、学生のニーズに回答すべく改善を続けてきました。1～2年次では、キャリア理論や社会人に必要な基本情報をもとに、ライフキャリアとは何かを自分なりに咀嚼し自身のキャリアを考え、何が不足し何が必要かを考える必修科目を設けています。学生は自ずと今の学びが将来どう役に立つかを考えることで、自身の学びを自分でデザインする意欲が生じ、1年次にはこれをやりたい、2年次には、3年次には・・・という具体的プランを立てるようになります。こうしたプランを持ち始めた学生は、大学での学修を「自分事」として捉え、自律した学習者として学びのPDCA (Plan-Do-Check-Action) サイクルが回せるようになります。その結果として学生自身が成長実感を得て、希望するキャリアを選択することができればと切に願うところですが、その点について卒業時の調査結果から概ね肯定的な声を得ており、今年度もさらなる成果を上げてまいりたいと存じます。

ご報告が恒例になりますが、『大学ランキング2024 (AERAムック)』朝日新聞出版社(2023年4月15日)によりますと、高校からの評価ランキング(大学通信調べ：順位は全国796大学中)において、「小規模だが評価できる大学」(5位)、「面倒見が良い大学」(8位)、「入学後、生徒を伸ばしてくれる大学」(10位)、「就職に力を入れている大学」(15位)、「教育力が高い大学」(21位)の高評価をいただきました。今後も、日々改善の手を緩めず、大きな転換期を迎える新たな時代を開く実学教育の大学として教職協働にて歩んでまいります。

両キャンパスでは、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、5月8日からマスク着用を任意とする旨、学生に伝えております。一方、サーマルカメラ、アクリル板、手指消毒液の設置、及び教室の定期的換気などの対応を継続します。学生にも、中高時代の「生徒」とは違い、「学生」と呼ばれるにふさわしい自律的学び人としての意識をもって、これまで同様、互いに協力して責任ある行動を続け、皆と共に安心安全のキャンパスを維持していただきたいと思う次第です。

最後になりましたが、本会報誌上にて後援会の皆様にご挨拶申し上げる機会を頂きましたことに感謝申し上げます。もとより微力ではございますが、本学学生が価値ある充実の4年間を過ごせるよう尽力する所存です。保護者の皆様には後援会を通じて本学の教育活動、並びに学生の活動、諸行事に多大なるご支援を賜り、お陰様にて、様々有意義な活動が実現し成果を得て参りました。この場を借りて、心より感謝申し上げます。重ねて、今年度も引き続きご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。